

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



見えない世界に思いを馳せて

クォーター間には、教室でいろんな変化がありました。



SOLANの教室は、カーペット地です。

水筒の水がこぼれたり、給食がこぼれたり、時間がたつと少しずつ汚れがたまっていきます。

その汚れを秋休みの間に、業者の方がきれいにしてくださいました。
新学期、学校に着くなり、それに気づいた子達が数人います。

「わあ、綺麗になっている！」と。

決して多くはありません。

多分、見ようとしなければ見えない世界です。

身の回りのふとした変化に気づけるのは、そうした部分にアンテナが向いていたり、目が見開かれている証でもあります。

だからこそ、こうした部分に気づけるという感性が素晴らしいなと思いました。

もちろん、気づけていない時には大人の側から尋ねてあげるのも一つの方法です。

「何か、〇〇で変わったことがあるんだけど気づかない？」と。

気づくまで一緒に探してあげるのもいいですし、分からなければ教えてあげるのも一つの方法です。

色んな事に気づけるようになってきたら、「今日は3つ変わっていることがあるよ」と変化をつけてあげるのも面白いかもしれません。

変化に気づくことは、過程に気づくことでもあります。

カーペットが汚れている→カーペットがきれいになった。

これに気づくと、いろんな？が生まれやすくなります。

- 誰がきれいにしてくれたんだろう
- どうやってきれいにしたんだろう
- いつ綺麗にしたんだろう。
- 道具は何か使ったのかな
- もし使ったとしたら、それはどんな道具だろう
- きれいにするのにどのくらい時間がかかるのかな

これらは全て「変化の過程」であり、想像しなくてはそもそも見えないものです。それに気づかせてあげたり、想像する喜びを共に感じることも、伴走者の大切な役割なのだと思います。

以前もコスモスハーモニーに書いた通り見えるものよりも、見えないものの方が大切なことは世の中にあふれているからです。

<https://blog.seto-solan.ed.jp/?p=4375>

カーペットには気づいても、もう一つの変化にはほとんどの子が気づいていない様子でした。

それは、「机と椅子」です。

クォーター間の間に、日々清掃を担当してくださっている方々が、アルコール等を使って丁寧に机や椅子を磨き上げてくれました。

気づいている子は、私が見た限りいなかったもので、以下の写真を見せて語りました。



この写真にあるように、秋休みの間にみんなの机や椅子を綺麗にしてくださった方々がいます。（佐藤さんと坂田さんといいます）

鉛筆の汚れやクレヨンの汚れを、丁寧に磨いて拭きあげてくださっていました。

みんなが使っている机は、来年の一年生たちも使う大切な机です。

綺麗にしてくださった方々に感謝して、第 3 クォーターも大切に使いましょう。

子どもたちは、元気よく「ハイ！」と返事をしていました。

そして、翌日の今日。

私は朝の会で次のことを確認してみました。

昨日の朝の会で机や椅子を綺麗にしてくださっていた写真を見ましたね。
その方々に、昨日のうちに「机や椅子を綺麗にしてくれてありがとう」と
お礼の言葉を伝えた人はいますか？

私の予想では、お礼の言葉を直接伝えに行った子はそれほど多くないだろうと思っていました。

しかし、その予想は大きく外れました。

実に、クラスの半数以上の子が手を挙げたからです。

1年生でこうした行動ができることは、過去20年の教師人生における経験則から言っても中々できることではありません。

感謝の気持ちを持つことと、それを言葉にして相手に贈ることは、似ているようで実は大きく異なります。

行動には、勇気や決断力などが伴うからです。

もちろん、手を挙げた子たちを盛大に驚いて褒めました。

その一連の姿を見て、「昨日は言うの忘れちゃってたなあ」とつぶやく子たちも、この瞬間にいろんな学びを得ていたことと思います。

ちなみに、佐藤さんや坂田さんとお話している中で、面白い話を聞きました。

現在の2～4年生の上級生たちの机も、今の1年生の子たちと同じように去年は汚れが目立っていたそうです。

でも、今年に入ってから、そうした汚れが激減したとのことでした。

机の汚れ具合を見ても、確かな成長が感じられるのだそうです。

みんなの机が、第3クォーター終了時にどのようになっているのか、またしっかり見守りたいと思います。（渡辺道治）

（ご意見ご感想などいつでも気軽にお寄せください。）

↓↓↓

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)